

地域における生物多様性保全活動の実態

1. 背景

平成 22 年 12 月 3 日に成立した「地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律案」に基づき、今後、我が国全体として地域における生物多様性保全活動を促進していくに当たり、本法案を実効性のあるものにするためには、基本方針が非常に重要である。

基本方針には、生物多様性保全活動を推進するにあたり地域が抱えている課題解決にむけた事項を盛り込んでいく予定だが、そのためには、地域における生物多様性保全活動の実態（地域における生物多様性保全施策の現状や課題、実際に実施されている保全活動）を把握することが欠かせない。

そこで、基本方針の検討をはじめると同時に、全ての地方公共団体（都道府県、市区町村）に対してアンケートを実施するとともに、各種情報収集等により実態把握をおこなった。

2. アンケート調査実施概要

対象 : 全国の市区町村（1750 件）、都道府県（47 件）の計 1797 件

方法 : 郵送

回答期間 : 平成 22 年 11 月 15 日～平成 22 年 11 月 30 日

※ただし、回答期間終了後に返送されたアンケートも集計の対象としている。

回収率 : 60.6%（1089 通） ※平成 23 年 1 月 5 日現在

設問 : ①生物多様性保全についての自治体の体制・施策全般について

②「地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律案」について

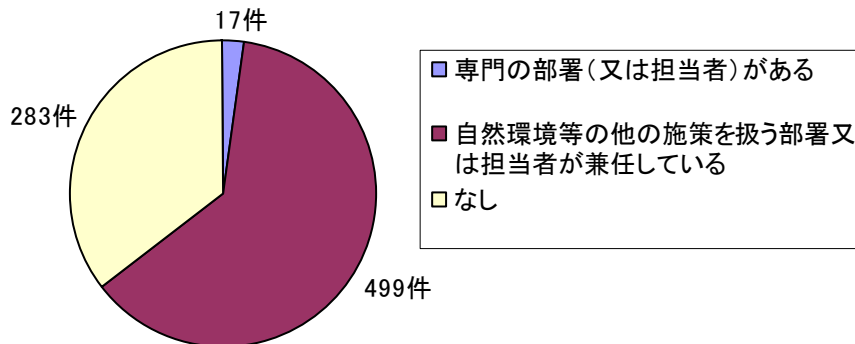
③生物多様性保全の活動事例について

④生物多様性保全に取り組む地域の NPO や市民団体等との連携について

3. アンケート調査結果概要（現在までに集計済 808 件（集計率 74.2%）での値）

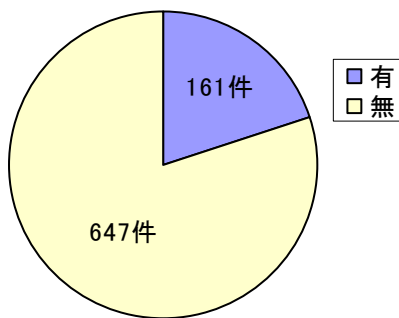
3-1. 生物多様性保全にあたっての地方協公共団体の体制・施策について

1) 生物多様性を扱う部署・担当者 ※有効回答数 799 件

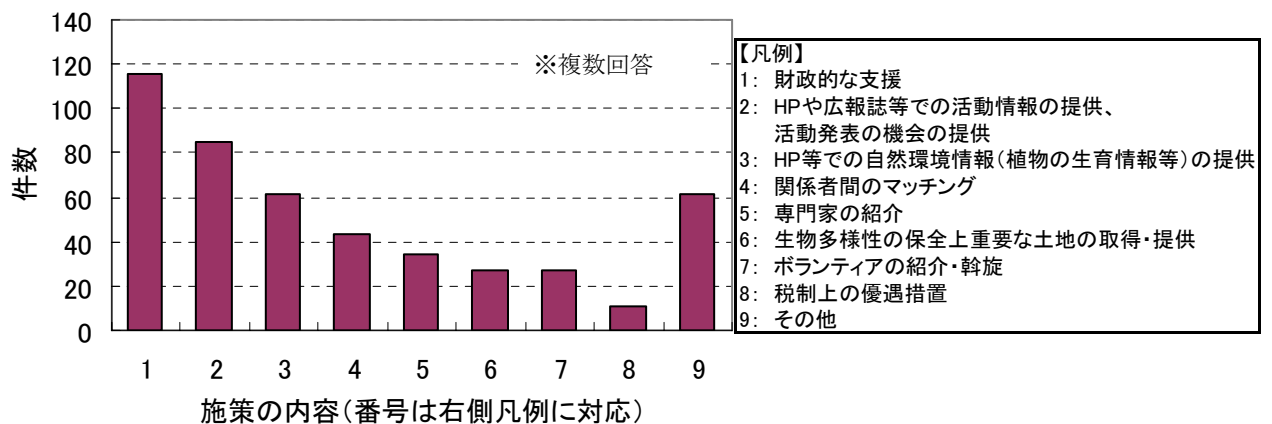


2) 地域における生物多様性保全活動を支援する施策 ※有効回答数 808 件

【施策の有無】



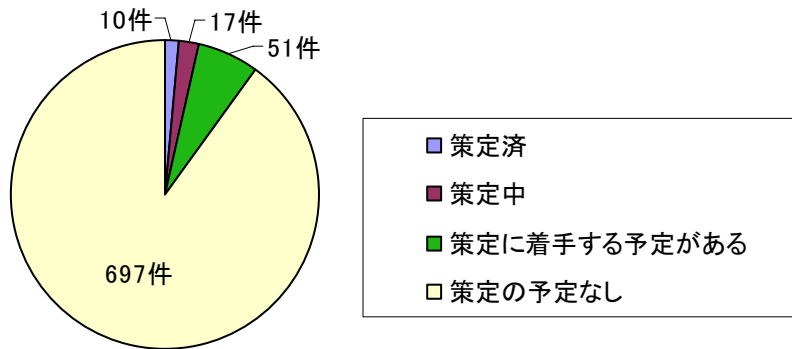
【施策が「有」と回答した自治体の施策の内容】



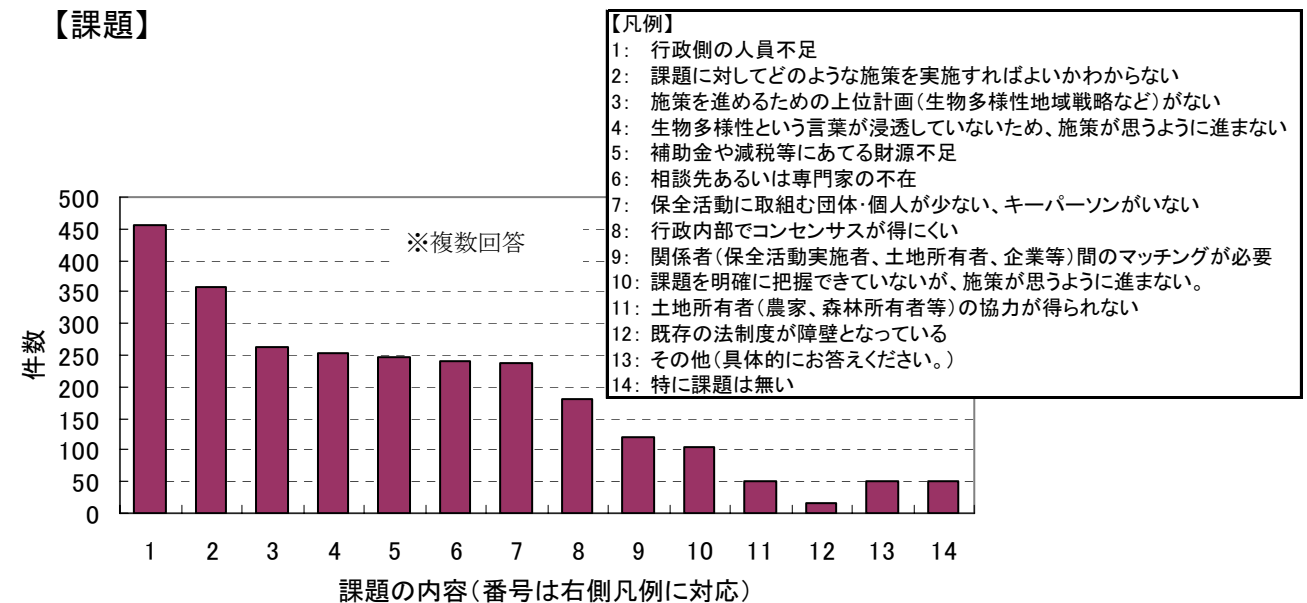
【施策例】

- ◇ 特定の種の保全活動（ブッポウソウ:長野県天龍村、オオムラサキ:埼玉県嵐山町、等）
- ◇ 環境教育・環境学習（岐阜県多治見市、香川県高松市、大阪府寝屋川市、等）
- ◇ 外来種対策（アライグマ:大阪府高槻市、アレチウリ:長野県塩尻市、等）

■ 生物多様性基本法第 13 条に基づく生物多様性地域戦略の策定状況 ※有効回答数 775 件



■ 生物多様性保全の施策を促進するにあたって感じている課題 ※有効回答数 755 件

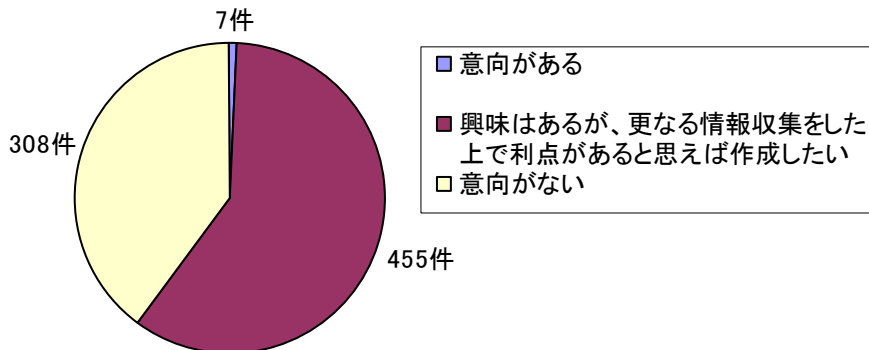


■ 生物多様性保全の取組を促進するにあたっての要望・意見等

- ◇ 厳しい財政状況、限られた人員で取り組むのは難しい。国の支援が必要である。
- ◇ 地域の自然環境の状態が把握できていない。把握するための調査を実施する余裕もない。
- ◇ 生物多様性の重要性が認識されているとはいえない。
- ◇ 都市域での生物多様性保全の重要性がわからない、必要性が感じられない。
- ◇ 産業、開発サイドのと調整が難しい。
- ◇ 単独自治体で施策等を展開するのではなく、環境的につながりのある自治体を含めて広域的な視点から施策を推進する必要がある。
- ◇ わかりやすい形で、生物多様性保全の取組を促進する施策の事例、施策を実施するマニュアル、施策の効果等の情報をいただきたい。
- ◇ 場合によっては、行政界をまたいだ取組が必要である。

3-2. 「地域における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律案」について

■地域連携保全活動計画を作成する意向 ※有効回答数 770 件



【「意向がある」と回答した地方自治体の主な意見】

- ◇ 既存の自然環境保全活動に活かしたい。
- ◇ 希少生物の生息地がある。県の重要生息地に指定されているところがある。
- ◇ 地域活性化には、そこに住む住民が“その地域固有の価値”を見だし、それを内外に発信する取組が重要であり、生物多様性に“その地域固有の価値”を見だして地域活性化の一つの軸としたい。

【「意向がない」と回答した地方自治体の主な意見】

- ◇ 人材・人員不足、予算不足
- ◇ 計画作成の必要性を感じない。必要性がわからない。(理由：情報不足、生物多様性への関心が低い等)
- ◇ 優先順位が低い。
- ◇ 他の計画や事業で対応する。
- ◇ 市町村レベルで作成するものではない。(特に河川域)

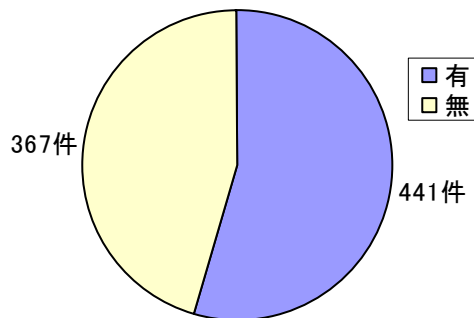
■地域連携保全活動基本方針の策定、地域における保全活動に対する各種支援の内容について要望・意見等

【主な要望・意見】

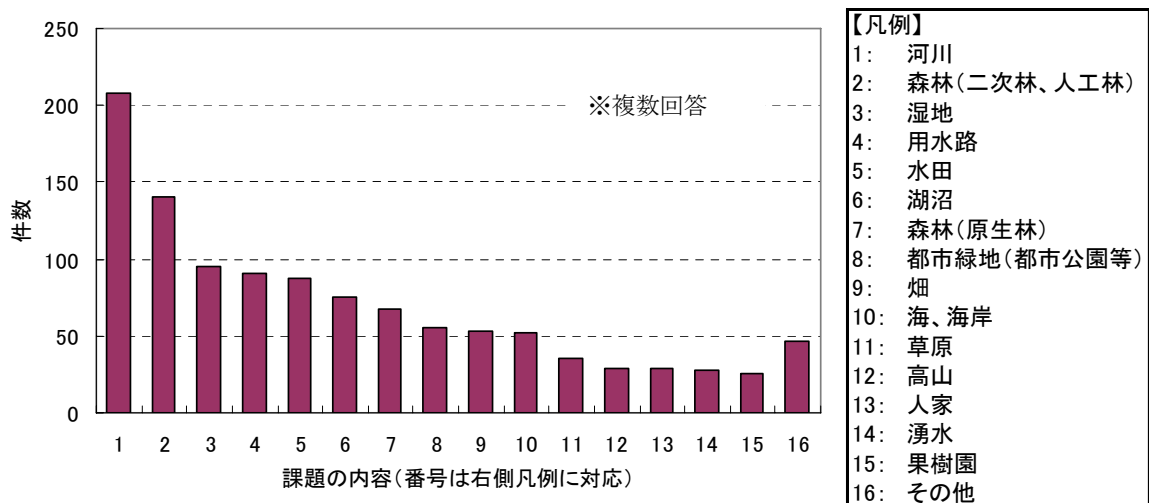
- ◇ 保全活動を継続できる形で（単発的ではない）、金銭面での支援をお願いしたい。
- ◇ 補助金の事務手続きを簡略化していただきたい。
- ◇ 保全活動における専門的な知識や経験の情報提供、相談窓口の設置、専門家の派遣等をお願いしたい。
- ◇ 広域的な保全活動には、都道府県や国も加わっていただきたい。
- ◇ 地権者等との調整がしやすいようにしていただきたい。
- ◇ 支援対象となる保全活動の目的や内容を明確に示していただきたい。

3-3. 自治体の区域内で実施されている生物多様性保全活動事例

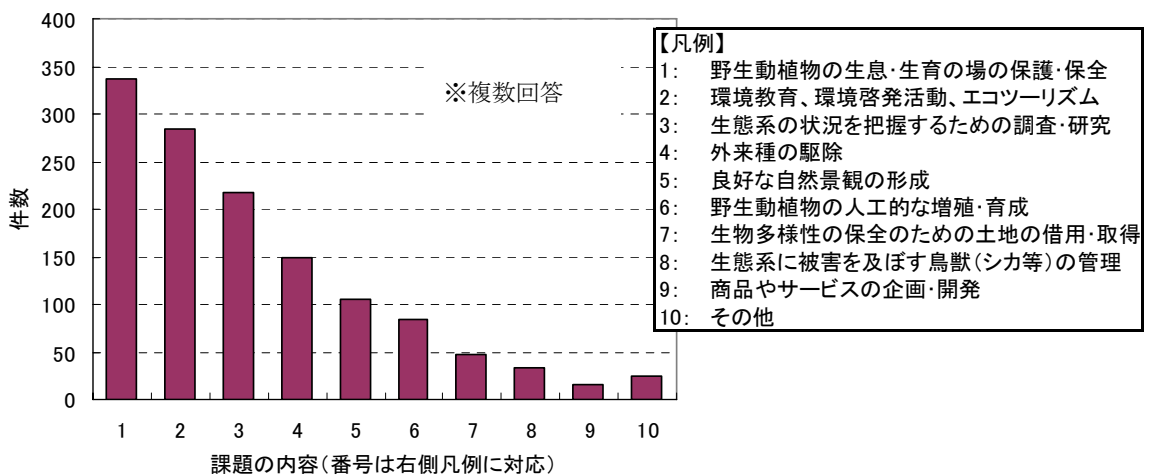
■活動事例の有無 ※有効回答数 808 件



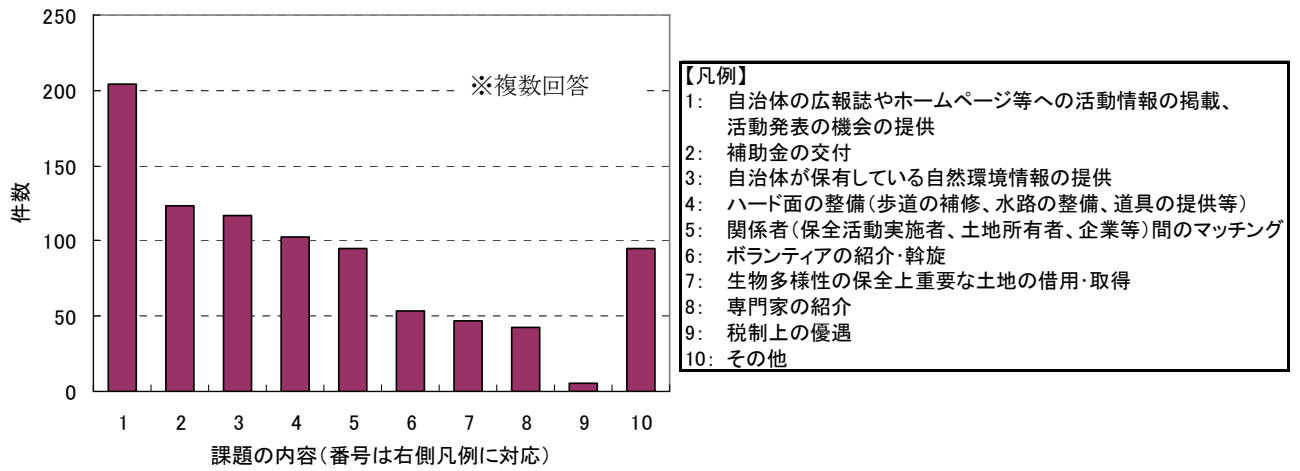
■活動場所の環境 ※有効回答数 594 件（複数の事例を挙げた自治体もある。）



■活動内容 ※有効回答数 594 件



■活動に対しての自治体の支援内容 ※有効回答数 594 件



4. 活動事例の紹介

- (1) 「名古屋ため池生き物いきいき計画事業」(愛知県名古屋市)
- (2) 「里地里山保全再生モデル事業」(神奈川県秦野市)
- (3) 「岡山市身近な生きものの里事業」(岡山県岡山市)
- (4) 「東播磨地域のため池生物多様性保全」(兵庫県東播磨地域)
- (5) 「なごみの里プロジェクト」(熊本県和水町)
- (6) 「蕪栗沼・周辺水田ふゆみずたんぼ」(宮城県大崎市等)
- (7) 「一社一村しずおか運動」(静岡県)

※各事例の詳細は p8～p11

活動事例1 「名古屋ため池生き物いきいき計画事業」 (愛知県名古屋市)

■関係者

行政	名古屋市
NPO、市民団体等	5団体
有識者、教育機関	—
企業等	—
その他	—

■連携組織

「名古屋ため池生物多様性保全協議会」

■活動環境

・湖沼

■取組分野

- ・野生動植物の生息・生育の場の保全
- ・外来種の駆除
- ・生態系の状況等を把握するための調査・研究

■取組内容

ため池の生物多様性の保全・再生を目的として、市内の主要なため池において、専門家やなごやため池市民調査員による動植物の調査を実施するとともに、池干しによるブラックバスなどの外来種の防除などを実施し、ため池の生態系の回復を図っている。

■特徴・・・生物多様性地域戦略への位置づけ

「生物多様性2050なごや戦略」の具体的施策の一つに、本事業が位置づけられている。また、名古屋市HPに名古屋ため池生物多様性保全協議会の活動状況を紹介するコーナーが設けられる等、行政も積極的に本活動に関わっている。



生物多様性2050なごや戦略(抜粋)
(平成22年3月、名古屋市)

活動事例2 「里地里山保全再生」 (神奈川県秦野市)

■関係者

行政	秦野市、神奈川県、国土交通省、農林水産省、環境省
NPO、市民団体等	約30団体
有識者、教育機関	東京農業大、中央大
企業等	—
その他	—

■連携組織

なし

■活動環境

- ・森林 (二次林、人工林)
- ・水田
- ・緑地
- ・畑
- ・用水路

■取組分野

- ・野生動植物の生息・生育の場の保全
- ・生態系に被害を及ぼす鳥獣(シカ等)の管理
- ・環境教育、環境啓発活動、エコツーリズム
- ・良好な自然景観の形成
- ・その他(バイオマス利用)

■取組内容

ため池の生物多様性の保全・再生を目的として、市内の主要なため池において、専門家やなごやため池市民調査員による動植物の調査を実施するとともに、池干しによるブラックバスなどの外来種の防除などを実施し、ため池の生態系の回復を図っている。

■特徴・・・里地里山保全再生モデル事業内容の継続

平成16～20年度に環境省が実施した「里地里山保全再生モデル事業」の事業実施地域の一つに選定された。モデル事業において、里地里山保全活動のアクションプランである「地域戦略」及びそれに基づく活動を実施してきたが、モデル事業期間終了後以降も、引き続き活動を継続している。



里地里山保全再生モデル事業地域戦略(表紙)
(平成18年3月、平成19年2月一部改訂、秦野市)

活動事例3 「岡山市身近な生きものの里事業」（岡山県岡山市）

■関係者

行政	岡山市
NPO、市民団体等	身近な生きものの里指定地域の活動団体(10箇所)
有識者、教育機関	—
企業等	—
その他	—

■連携組織

なし

■活動環境

- ・河川
- ・用水路

■取組分野

- ・野生動植物の生息・生育の場の保全
- ・生態系の状況等を把握するための調査・研究
- ・環境教育、環境啓発活動、エコツーリズム

■取組内容

「ホタルの里」事業を発展させて、市民参加により身近な生きものの生息地の保全に取り組んでいる。活動地域、活動団体、その地域のシンボルとなる種等について条件を満たした地域を「身近な生きものの里」に指定（現在、10箇所）し、河川敷の草刈・清掃や水路の補修等、地域や生きものの特徴に応じた保全活動を展開している。

■特徴・・・活動団体や市が担う役割を明確化

本事業のパンフレットの中で、「身近な生きものの里」への指定条件や、活動団体や市が担う役割を明確化している。活動団体は現地での保全活動を実施し、岡山市は予算内でそのサポート（資材の提供、保険の加入、環境配慮の促進等）を実施している。



岡山市身近な生きものの里事業パンフレット（岡山市）

活動事例4 「東播磨地域のため池生物多様性保全」（兵庫県東播磨地域）

■関係者

行政	兵庫県、明石市、加古川市、高砂市、稲美町、播磨町
NPO、市民団体等	約80団体
有識者、教育機関	兵庫県立大
企業等	(株)神戸新聞社、(株)ラジオ関西
その他	農協、土地改良区

■連携組織

「いなみ野ため池ミュージアム運営協議会」

■活動環境

- ・湖沼

■取組分野

- ・野生動植物の生息・生育の場の保全
- ・外来種の駆除
- ・生態系の状況等を把握するための調査・研究
- ・環境教育、環境啓発活動、エコツーリズム

■取組内容

東播磨地域のため池群について、池干しにより外来種の防除を行い健全なため池生態系の回復を図るとともに、ため池の生物調査や普及啓発を実施している。

■特徴・・・市町村の枠をこえた広域連携

ある場所のため池の管理者やその周辺住民らにより構成される団体や、専門的な観点から広域的な活動を行う団体等が広く集まり「いなみ野ため池ミュージアム」を形成し、ため池を中心とした地域づくりを展開し、活力と魅力ある豊かな田園空間の形成を目指している。



いなみ野ため池ミュージアム運営協議会の体制（出典：いなみ野ため池ミュージアムHP）

活動事例5 「なごみの里プロジェクト」 （熊本県和水町）

■関係者

行政	和水町
NPO、市民団体等	なごみの里
有識者、教育機関	熊本県立大
企業等	富士電機システムズ(株)
その他	—

■連携組織

なし

■活動環境

- ・森林（二次林、人工林）
- ・水田
- ・

■取組分野

- ・野生動植物の生息・生育の場の保全
- ・生態系の状況等を把握するための調査・研究
- ・環境教育、環境啓発活動、エコツーリズム

■取組内容

行政、大学、企業が連携して林道（歩道）の整備、棚田の維持管理、牛の放牧等を実施しており、牛の放牧による除草作業の軽減や、無肥料無農薬による米作りに成功している。また、毎年、野口健氏を迎えての「環境学校」（小学生対象とした次世代の里山保全を担う人の育成を目的とした環境学習）を実施している。

■特徴・・・行政－大学－企業間で包括協定の締結

管理不足で荒廃する町有地に手を焼いていた町、研究の場や学生の環境学習の場として活用する意向があった大学、社会貢献活動の場等を求めていた企業・大学、3者の思惑が一致して包括協定を締結し、連携して里地里山再生に取り組んでいる。



「環境学校」の開催（平成22年10月）
（出典：和水町HP）

活動事例6 「蕪栗沼・周辺水田ふゆみずたんぼ」（宮城県大崎市等）

■関係者

行政	宮城県、栗原市 登米市、大崎市
NPO、市民団体等	NPO法人蕪栗ぬまっこくらぶ、 NPO法人たんぼ、日本雁を保護する会 等
有識者、教育機関	宮城教育大学
企業等	(株)たじり穂波公社
その他	土地改良区、農協、農業者

■連携組織

マガンの里づくり研究会

■活動環境

- ・水田
- ・湖沼
- ・用水路
- ・湿地

■取組分野

- ・野生動植物の生息・生育の場の保全
- ・生態系の状況等を把握するための調査・研究
- ・環境教育、環境啓発活動、エコツーリズム
- ・良好な自然景観の形成

■取組内容

「マガンの里」というキーワードのもとに、行政とNPOや研究機関、地域住民が協働して、冬の間使っていないたんぼに水を張りマガンやハクチョウに採餌場を提供する取組（ふゆみずたんぼ）を行っている。また、灌木の伐採や浚渫などを実施し、蕪栗沼の本来の湿地環境の復元等にも取り組んでいる。

■特徴・・・経済的価値の付加に向けた取組

「ふゆみずたんぼ」により生産されたお米のブランド化やエコツーリズムの推進等、経済活動と資源の保全を持続的に展開しようと関係機関が協働している。



湿地の陸地化により繁茂した灌木の伐採

活動事例 7 「一社一村しずおか運動」 (静岡県)

■関係者

行政	静岡県
NPO、市民団体等	一社一村しずおか運動への登録団体
有識者、教育機関	一社一村しずおか運動への登録団体
企業等	一社一村しずおか運動への登録企業
その他	—

■連携組織

なし

■活動環境

・マッチング事例による。

■取組分野

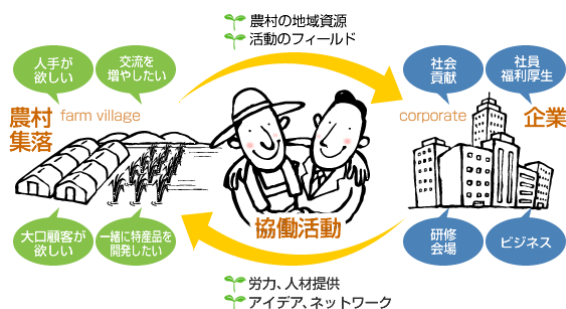
・マッチング事例による。

■取組内容

農村の要望である「人手がほしい」「交流を増やしたい」「安定した顧客がほしい」「一緒に特産品を開発したい」と、企業の要望である「社会貢献をしたい」「社員の福利厚生に活用したい」「地域の資源をビジネス化したい」のニーズを結びつけ、協働活動を支援している。

■特徴・・・フィールドを限定しないマッチング

行政が地域における活動団体と企業とのマッチングを行う事例はいくつかあるが、森林(里山)をフィールドとしているものが多い。そのなかで、静岡県はフィールドを限定せず農村と企業との協働を推進し、都市と農村の交流、農村地域の自然環境保全や農業振興への寄与を支援しており、2010年4月23日現在で、県内18地区で22組のマッチングに成功している。



一社一村運動の活動イメージ
(出典：静岡県HP)